さちが丘小学校　学校だより

若　竹

２　月　号

令和５年１月31日
横浜市立さちが丘小学校
校 長　　高浜　正太郎
TEL.361-0777　FAX.361-0787
WEBページ　http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sachigaoka/

暦の上では春になります

副校長　小西　隆一郎

　寒い日が続いています。昔の人は１年で１番寒いこの時期を大寒と呼びました。今年は１月２０日から２月３日までとなります。昔は暖房といっても、こたつと石油ストーブくらいしかありません。こたつにもぐり、ストーブにあたりながら春が来るのをじっと待っていたのです。この大寒が終わるのが２月３日です。そこでこの日を「季節の分かれ目」ということで「節分」と呼びました。節分の翌日、２月４日は「立春」となります。この日は名前の通り、春が始まった１日目となります。季節の分かれ目は年に４回あるのに、なぜ冬から春になるときだけが「節分」という言葉として残ったのでしょう。それは寒さを我慢していた冬から、命が始まる春が来るということで、冬から春への変わり目はとても大切だからです。冬眠していた動物たちは目覚めます。卵で冬を越した生き物は、卵からかえります。草や木も新しい芽が伸びてきます。そして私たち人間も春は新しいスタートとなります。卒業して中学校に進学したり、上の学年に進級したり、大人は就職して仕事を始めたり、新しい場所に仕事先が変わったりします。だからこの冬から春への節分が大事にされたのです。節分の日は豆をまいたり、恵方巻を食べたりするご家庭も多いのではないでしょうか。ではなぜ節分には豆をまくのでしょうか。それは、病気や災害を鬼に例えて、悪い鬼が来ないように願ってまくのです。「鬼は外」というのは、悪い病気や災害が起きないように追い払い、福を呼ぶためのかけ声です。自分の心の中に追い出してしまいたい鬼がいるなら、「鬼は外」の声と共に、追い出してしまいましょう。正に「鬼は外」は自分の心を新しくして「けじめ」をつけるためのかけ声なのです。「けじめ」とは守らなければいけない区別、心のスイッチの切り替えのことです。「今は何をするときか」が分かって行動できている人は、「けじめのある人」ということになります。授業中も、今はお話を聞く時だとわかっている人は、話を目で聞いているので、顔がしっかりと話し手の方を向いています。よく考え、考えた通りのことができること。授業中は一生懸命勉強する。遊ぶときは一生懸命遊ぶ。話を聞くときは一生懸命聞く。一つ一つにけじめがついていると、時間を大切に使うことができ、たくさんのことが自分の力となります。逆にけじめがついていないと、人間はどんどんだらしなくなってしまいます。けじめのつかない弱い心の人は、その弱い心という鬼を節分の豆と一緒に追い出してしまいましょう。今年度も残り２か月となりました。けじめのある生活を心がけ、楽しく元気な毎日を過ごしてほしいと思います。